

中学校第1学年 社会科学学習指導案

日時 平成16年11月5日(金)5校時
生徒 湯田町立湯田中学校 1年A組
男子16名 女子13名 計29名
指導者 教諭 菊池 弘明

1 単元名 都道府県を調べよう～岩手県～((2)地域の規模に応じた調査 イ 都道府県)

2 単元について

(1)教材観

本単元は、47都道府県の中から学校所在地の都道府県を含めて二つ又は三つの都道府県を事例として取り上げ、地理的事象を見出して追究し、地域的特色をとらえさせるとともに、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせることをねらいとしている。

ねらいを達成するために、本校では岩手県と東京都を事例として取り上げ、岩手県については、全体としてどのような特色をもつ地域としてとらえられるのかという視点から、東京都については他の都道府県と比べて特に目立つもので特色付けるという視点で十分な授業時数を配当して追究する学習を行うこととした。

岩手県の地域的特色をとらえるための方法としては、50万分の1よりも大きな縮尺から読み取る、都道府県単位の統計資料の分析、電話やファックス、インターネットなどを活用しての資料の収集が有効となってくる。

そこで、本単元では地域的特色をとらえる方法として、統計資料の読み取りに重点を置き、大まかな特色をとらえる活動からさらなる課題を設定して追究させることとした。そして、まとめ方については、地図化の工夫を柱にすえ、その基礎を身に付けさせることとした。

(2)生徒観

・授業についてのアンケート結果

| 授業の理解度 | 6月 | 10月 | 授業の楽しさ | 6月 | 10月 |
|-----------|-----|-----|----------|-----|-----|
| たいへんよく分かる | 55% | 34% | たいへん楽しい | 55% | 38% |
| まずまず分かる | 45% | 58% | まずまず楽しい | 38% | 58% |
| あまり分からない | 0% | 8% | あまり楽しくない | 7% | 4% |
| 全然分からない | 0% | 0% | 全然楽しくない | 0% | 0% |

・NRTの結果(4月実施)・・・偏差値平均 51.8

地理的分野 全国比100

歴史的分野 全国比114

公民的分野 全国比100

・学習定着度状況調査(10月実施)・・・正答率67%

ア 社会的事象への関心・意欲・態度

社会科における本年度意識調査(10月実施)を見てみると、「社会の授業がたいへん楽しい・まずまず楽しい」と答えた生徒がほとんどで、社会科に対する関心は高いと思われる。時に私語も多くなることもあるが、全体として意欲的に課題を追究し、積極的に発言する生徒たちである。

イ 社会的な思考・判断

社会的事象から疑問を見出す生徒は多いが、その事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、判断できる生徒は少ない。そこで、思考・判断力を高めるために二者択一の判断場面

を設けたり、多くの生徒の考えを聞く場面に時間を割いたりするなどの工夫を継続している。

ウ 資料活用の技能・表現

資料に親しみ、与えられた資料を適切に読み取る技能・表現は高まっている。しかし、いくつかの資料を比較したり、処理したりする学習指導が不足しているのか、十分な力が身に付いているとはいえない。

エ 社会的な事象について知識・理解

各種テストの結果を見ると、約70%の生徒は「十分満足できる・おおよそ満足できる」状況にある。不十分な生徒に共通することは、宿題への取り組みが不十分であることである。そこで、授業時間内における知識・理解部分の基礎・基本の定着のくり返しに努め、課題の取り組みを徹底しているところである。

(3) 指導観

本単元のねらいは「岩手県が全体としてどのような特色をもつ地域なのかをとらえさせるとともに、都道府県を多面的にとらえる視点や方法を身に付ける」ことである。そこで、岩手県を自然、人口、産業、地域の結びつきといった面から追究することにした。本単元では、特に統計資料の読み取りに重点を置き、全国と岩手県の比較から大まかな特色をとらえ、さらにそこから課題を見だし、追究し、まとめるという学習活動を行わせたいと考えた。また、まとめる段階では地図を用いたまとめ方の工夫をさせたいと考えている。さらに、学習形態としては、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を生徒一人一人に確実に身に付けさせるために、個人での学習活動を主とすることとしたい。

3 単元の目標

【社会的な事象への関心・意欲・態度】

都道府県に対する関心を高め、その調査に意欲的に取り組み、都道府県の地域的特色を捉えようとしている。

【社会的な思考・判断】

都道府県の地理的事象から課題を見だし、それを環境条件や人々の営みなどと関連付けて多面的・多角的に追究するとともに、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を考察している。

【資料活用の技能・表現】

都道府県に関する地図や統計その他の資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、都道府県の地域的特色を追究し考察した過程や結果をまとめたり、発表したりしている。

【社会的な事象についての知識・理解】

都道府県の地域的特色とともに、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法などを理解し、それらの知識を身に付けている。

4 単元の指導計画と評価規準(6時間扱い、本時2/6)

| 時間 | 学習内容 | 評価規準 | | | |
|-----------|-----------------------|------------------|-----------|--|------------------|
| | | 社会的な事象への関心・意欲・態度 | 社会的な思考・判断 | 資料活用の技能・表現 | 社会的な事象についての知識・理解 |
| 1 | 岩手県の自然、人口、交通の特色をとらえよう | | | 地図や統計資料をもとに、岩手県の自然、人口、交通の特色を日本全体の視点からとらえることができる。 | |
| 2 (本時) | 岩手県の産業の特色をとらえよう | | | 統計資料をもとに、岩手県の産業の特色を日本全体の視点からとらえることができる。 | |

| | | | | | |
|-----------------------|--------------------------------------|---------------------------|---|--|--|
| 3 ・ 4 ・ 5 | 岩手県の自然、人口、交通、産業の特色を詳しく調べ、調べた結果をまとめよう | 課題解決のための調査学習に意欲的に取り組んでいる。 | 課題について、地域の環境条件や他地域の結び付き、人々の営みなどと関連づけて考えている。 | 課題解決のための資料を適切に選択し、活用できる。岩手県の特色を追究し考察した過程や結果を地図化したり報告書にまとめたりすることができる。 | |
| 6 | 学習のまとめ | | | | 岩手県の地域的特色とともに、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を理解することができる。 |

5 本時の指導

(1) 本時の目標

統計資料をもとに、岩手県の産業の特色を日本全体の視点からとらえ、さらなる追究課題を設定することができる。

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

| 評価の観点 | 具体的評価規準 | | |
|------------|---|--|---|
| | A：十分満足できる | B：おおむね満足できる | C：努力を要する生徒への手立て |
| 資料活用の技能・表現 | <p>統計資料をもとに、岩手県の産業の特色を日本全体の視点から以下のことをとらえ、とらえた内容が読み手や聞き手にとって分かりやすく表現できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業生産額では米と畜産の生産額の割合が高いこと。 ・林業では、森林面積が広いこと、林業で働く人が多いこと。 ・漁業では、漁獲高のうち養殖業の割合が高いこと。 ・工業では、工業生産額が増加し続けていること、工業出荷額の内訳では機械と食料品の割合が高いこと。 | <p>統計資料をもとに、岩手県の産業の特色を日本全体の視点から以下のことをとらえることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業生産額では米と畜産の生産額の割合が高いこと。 ・林業では、森林面積が広いこと、林業で働く人が多いこと。 ・漁業では、漁獲高のうち養殖業の割合が高いこと。 ・工業では、工業生産額が増加し続けていること、工業出荷額の内訳では機械と食料品の割合が高いこと。 | <ul style="list-style-type: none"> ・農業生産額の読み取りでは、割合が増えた項目に着目させる。 ・林業では、森林面積や林業労働者の全国における順位に着目させる。 ・漁業では、漁獲高の全国における順位と養殖業の割合を比較するようにさせる。 ・工業では、グラフの変化の様子に着目させるとともに工業出荷額の割合が高いものに着目させる。 |

(3) 本時の展開

| 段階 | 学 習 活 動 | 支援、評価 | 教具・留意事項 |
|-------------------|--|---|---|
| 導 入 5 分 | 1 前時の復習をする。岩手県の自然、人口、交通の特色を確認する。 2 学習課題を把握する。 【学習課題】 資料を読み取り、岩手県の産業の特色をとらえ、もっと調べたいことを挙げよう！ | | ・学習プリントを配布する |
| 展 開 30 分 | 3 産業別就業者の割合の資料から全国と比べた岩手県の特色を読み取る。第一次産業の割合が高い。 4 岩手県の農業、林業、漁業、工業の特色について資料から読み取る。 農業産出額の割合の資料から農業の特色を読み取る。全国と比べて米と畜産の生産額の割合が高い。(一斉) 都道府県統計の資料から林業の特色を読み取る。全国の中で、森林面積が広く、林業労働者が多く、さかんである。(個別) 都道府県統計の漁獲高の資料と養殖業の割合の資料から漁業の特色を読み取る。全国の中で、漁獲高多いほうであり、また、養殖業の割合が高い。(個別) 工業出荷額の変化の資料と工業出荷額の内訳の資料から工業の特色を読み取る。全国では2000年に減少しているが、岩手県は増加し続けている。全国と比べて機械と食料品の割合が高い。(個別) | <ul style="list-style-type: none"> 割合が高いものに注目させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【技能・表現】 統計資料をもとに、岩手県の産業の特色を日本全体の視点からとらえることができる。 (観察、ワークシート) </div> <ul style="list-style-type: none"> 農業生産額を読み取りでは、割合が増えた項目に着目させる。 林業では、森林面積や林業労働者の全国における順位に着目させる。 漁業では、漁獲高の全国における順位と養殖業の割合を比較するようにさせる。 工業では、グラフの変化の様子に着目させるとともに工業出荷額の割合が高いものに注目させる。 <ul style="list-style-type: none"> 一つの項目ごとに、特色をまとめ終わった生徒に、疑問に思ったことや詳しく調べたいことを学習プリントに書かせる。 | <ul style="list-style-type: none"> 資料1 全国と岩手県の産業別就業者の割合(OHP) 第二次産業の割合はあまり変わらないことにもふれる。 第一次産業、第二次産業、第三次産業について説明する。 資料2 全国と岩手県の農業産出額の割合 資料3 森林面積、林業労働者の都道府県統計 資料4 漁獲高の都道府県統計 資料5 全国と岩手県の漁業の内訳 資料6 全国と岩手県の工業出荷額の変化 資料7 全国と岩手県の工業出荷額の内訳 時間になったら途中で作業を止めさせる。 |
| 終 末 15 分 | 5 読み取った産業の特色や今後の追究課題を発表し、本時の学習をまとめる。 6 次時には、岩手県の特色について、疑問に思ったことや詳しく調べたいことを挙げ、さらに調べることを予告する。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分のまとめを消すことなく、補足等は赤ペンを使用して記入させる。 | <ul style="list-style-type: none"> OHPで資料の提示 生徒の発言を生かしたまとめ方をする。 |

